

特別支援教育だより

三重県立特別支援学校伊賀つばさ学園 教育支援部 発行

令和元年度 第3号（12月 日）

12月も半ばとなりました。長いようで短かった1年もまもなく終わり新しい年を迎えるのを待つばかりです。今年は台風や豪雨が続き、甚大な被害を被った地域がありました。未だ大変な思いをされている方々も多く、1日も早く平穏な日常に戻られますことを心からお祈り申し上げます。また、平成から令和へと時代が変わった年でもあります。消費税増税などもあり、明るい話題ばかりではありませんが、まさに変化の1年だったと言えるでしょう。変化と言えば、今年は名張市におきまして、秋休みがあったり、2学期の終業の日が遅かったりと変則的な学校生活のようです。単年度のことだそうですが、子どもたちの中には変化が苦手だったり、いつもと違う流れに不安を感じたりして、表面的にはわかりにくくても負担に感じている場合があります。ぜひ注意して見てあげていただきたいと思います。

学びにくい子への学習支援（漢字編）

さて、今号では漢字の学習の場面において、つまずきが見られるケースについて考えてみたいと思います。漢字の学習はたくさんの文字を覚えなければならず、つまずくことも少なくありません。形が複雑になってきたり、複数の読み方があったりして、発達障がいとの特性と関連した困難が起こりやすくなります。以前にもお伝えしたかもしれませんが、漢字を繰り返し書いて覚える学習法は漢字が苦手な子供にとって有効とは言えません。子ども一人ひとりの特性に寄り添った支援の仕方を考える必要があります。

まず、既習漢字のテストからどのような誤りがあるか、つまずきを分析するのがおすすめです。『誤り分析で始める！学びにくい子への「国語・算数」つまずきサポート』を参考にされるとよいと思います。そこから、子どもの特性とつまずきの関係や支援方法について考えていく必要があります。

① 読み書きが苦手な場合

文字を読むことに苦手さがあるので、漢字も読みを覚えて行くことは苦手です。一般的な漢字テストは読みから漢字を書くものですので、漢字を想起できずに無答や誤答が多くなります。一方で、意味で覚えていくことは得意な場合があるので、意味的な手がかりを使うことでうまく漢字を覚えていくことができる場合があります。



② 書字が苦手な場合

空間認知が弱く形を捉えることが苦手だと、複雑な漢字の書字でつまずくことがあります。正確に書いたり、マスの中におさめて書いたりすることも苦手です。形の似ている漢字と書き間違えることもあります。このような場合、漢字の形を言語化して覚える方法や、漢字を部首とつくりに分けて再構成するパズルや漢字足し算などが、効果がある場合があります。

③ 多動性・衝動性がみられる場合

漢字をゆっくり丁寧に書くことに課題があるので、繰り返し書いて練習することは逆効果で、回数が増えるほど形が崩れてきます。ポイントを絞って集中し、少ない回数で練習できるようにすることが大切です。

④ 不注意がみられる場合

練習しながら頭の中で違うことを考え、手だけが動いている場合があります、あまり効果が上がりません。部分的に間違っていることが多くあります。漢字の形、読みや意味に気をつけながら練習できるよう、工夫する必要があります。

まず、読み書きが苦手な場合や不注意がみられる場合に有効なのが、漢字足し算練習です。習った漢字の足し算を自分で作っていく練習です。例えば「日（ひ）＋月（つき）＝明（あかるい）」のように、自分で考えて意味付けしながら分け、唱えながら確認します。また、部首の意味を知っておくと、漢字を覚える手がかりが増えると思います。他にも、既習漢字を形のつながりや意味のつながりからまとめるワークシートなども効果があります。



次に、多動性・衝動性がみられる子どもの場合です。書いた漢字を見て修正ポイントを一つ指摘し、子どもがそのポイントに注意しながら書いていけば○として練習を1回で終わるようにし、何度も同じ字を書かさないようにします。続けることで初めから気をつけて書くようになることが期待できます。

以上のように誤り分析から、子どもの特性に気付き、一人ひとりに合った方法で漢字の練習に取り組んでいけるようにするとよいと思います。

参考：学びにくい子への学習支援ワーク，LD/ADHD&ASD 2016.1

（文責 清都）